

第16回 ネクスト・ソサエティ・フォーラム 2021—ドラッカー学会 総会&大会

The New Realities

2021年5月15日(土)

In Zoom

〈主催〉 ドラッカー学会

〈協賛〉 Essential Management School、ODNJ (OD Network Japan)



開催日 2021年5月15日(土) 10:00～18:00 (開場9:30)

開催方法 Zoom(当日URLはチケット申込時に配信されます)

参加資格 主催団体会員および紹介者

先着1000名

「平坦な大地にも、高みに上り、谷へと下りる峠がある。そのほとんどは、たんなる地形の変化であって、気候や言葉や生活様式が変わることはない。

しかし、なかにはそうでない峠もある。本当の境界(分水嶺)がある。とくに高くなるわけでも、目をひくわけでもない。たとえば、ブレンネル峠はアルプスのなかでも、もっとも低く、もっとも緩やかである。だがそれは、古より、地中海文化と北欧文化を分けてきた。(略)そして歴史にも境界がある。その時点では、とくに気づかれることもない。だがひとたび越えてしまえば、社会的、政治的な風景が変わり、気候が変わる。そして言葉も変わる。

『新しい現実』がはじまる」

(『新しい現実』)

プログラム

The New Realities

—すでに起こった未来と「コロナ後」の世界

NSF2021をZoomにて開催いたします。

全地球レベルの危機をどう乗り越え、次なる展開に利することができるか。

さまざまな領域のプロフェッショナルに参集いただき、ネクスト・ソサエティ創造、そしてそれぞれの「新しい現実」を有意義にシェアできる場にしたいと思います。

長丁場となりますが、ぜひお集まりください。

* * * *

新型コロナの蔓延は、全世界を麻痺させ、社会システムに根本的な問いを投げかけています。それは、現代に対して何を語りかけているのか。私たちはどのような世界へと歩みを進めているのか。今、原点に戻って、ドラッカーの所説の本来の力、役割を大胆に応用展開する必要があるのではないか。自身の取り組みを地道に続けてきた創意あふれる論者たちが、現代社会の「新しい現実」の実像と行方を語りつつ、自由にして機能する社会への道を考えていきます。

【登壇予定者 (50音順、敬称略)】

- 青野 慶久 (サイボウズ代表取締役社長)
- 井坂 康志 (ドラッカー学会理事)
- 伊藤 順朗 (セブン&アイ・ホールディングス取締役常務執行役員)
- 大井 賢一 (認定特定非営利活動法人がんサポートコミュニティー事務局長)
- 大塚三紀子 (玄米カフェ実身美)
- 北村 和敏 (経営倫理士/日本経営倫理士協会 常務理事)
- 西條 剛央 (Essential Management School代表)
- 佐藤 等 (ドラッカー学会理事)
- 阪井 和男 (ドラッカー学会代表、明治大学法学部教授)
- 陶山 祐司 ((株)Zebras and Company 代表取締役)
- 中野 羊彦 (経営創研(株) パートナー)
- 藤田 勝利 (桃山学院大学ビジネスデザイン学部特任教授)
- 平尾 貴治 (組織開発コンサルタント。(株)シー・シー・アイ代表取締役社長)
- 八木澤智正 (ドラッカー学会理事)
- 山脇 秀樹 (ピーター・ドラッカー経営大学院教授・伊藤チェアー基金教授)
- 吉村 慎一 (博多大会実行委員長)

時間	進行	論題
10:00 ~ 10:20		総会 (*ドラッカー学会員のみ参加可能)
(10:20 ~ 全体受付開始)		
10:30 ~ 10:35	開会の辞	阪井和男
10:35 ~ 10:50	会員報告	大塚三紀子「私の観察によれば」
10:50 ~ 11:15	会員報告	平尾貴治「ポスト・コロナのコンサルティング」
11:15 ~ 11:50	理事報告	八木澤智正「The New Realities」(ネクスト・ソサエティ賞)
(11:50 ~ 13:10 休憩)		
12:00 ~ 12:30	研究会発表	ドラッカー「マネジメント」研究会 (森岡謙仁 他)*
13:10 ~ 14:20	基調講演	山脇秀樹「The Future That Has Already Happened」
14:20 ~ 15:20	現状へのコメント	北村和敏「パラダイムシフト——水谷雅一の企業価値四原理システムとドラッカー・マネジメント」 陶山祐司「なぜ、今ドラッカーなのか——危機と変革の時代においてドラッカーが果たす役割」 中野羊彦「新しい現実(知識社会化)への対応と働く人への支援」 藤田勝利「新しい現実で試される『本当のマネジメント』」
(15:20 ~ 15:25 休憩)		
15:25 ~ 16:30		新任プラクティショナー・フェローに聞く 「コロナ危機の問いかけるもの——何を見て、どう動くか」 ファシリテーター／八木澤智正・井坂康志 スピーカー／伊藤順朗×青野慶久×大井賢一
16:30 ~ 17:30	講演	西條剛央「クライシスマネジメントの本質」
17:30 ~ 17:40	秋大会案内	吉村慎一(博多大会実行委員長)
17:40 ~ 17:50	閉会の辞	佐藤等

*
研究会発表 ドラッカー「マネジメント」研究会
テーマ:「新しい現実」とマネジメントの進化 ~ 「MSC論文エッセイ集」(vol.2) 発刊記念 ~

◇発表1: ドラッカー・マネジメント(MSC)の進化
森岡謙仁(研究会代表、当学会理事)

◇発表2: MSCでアニメ『響け! ユーフォニアム』を読み解く
宮本定幸(フリーランス、リカレント教育)

◇発表3: MSCとサービス・ドミナントロジック
佐藤幸夫(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)

◇発表4: ドラッカー流、セカンドキャリアデザイン
岡崎宏昭(会社員)

※昼食とともにご視聴いただければ幸いです。



【登壇者】

阪井和男



明治大学法学部教授・理学博士、本会代表。1952年和歌山生まれ。77年東京理科大学理学部物理学科を卒業、同修士課程の後85年博士課程を退学。ソフトハウス勤務後87年理学博士を取得。サイエンスライターを経て90年明治大学法学部専任講師。93年同・助教授、98年から教授。この間、情報科学センター専任教員、副所長、所長を歴任し、同センターを改組したのち初代の情報基盤本部本部長に就任。この間、大学教育におけるICT活用のための情報教育改革、全学的なネットワーク運用組織の構築、教育棟リハビリタワーの情報インフラの企画・構築組織、eラーニング運営構築組織の創設と運営等に関わる。現在は、人・組織・社会の健全なあり方を究明する情報学・経営学・死生学を研究している。

私の観察によれば

大塚三紀子

突然飲食業界を襲ったコロナ。利益は危機に備えるプレミアムというドラッカー氏の言葉が刺さったが、元々原価と人件費がほとんどの飲食業界は、たいした利益も残せておらず、自らの至らなさを痛感する機会だった。店舗の集客力で維持していた事業体質だったため、今後の見通しと従業員の給与や、固定費を想像するだけでも暗澹たる気持ちになった。なんとか危機を乗り越えようと、店舗集客をオンライン集客に切り替え、店舗商品を、オンライン向け商品に切り替え企画したところ、ご予約だけで店舗分の売り上げを伸ばすことができた。間違いなく日頃の顧客の応援あってのことであったが、スタッフも夜昼なく、オンライン商品の企画、製造、品質管理、広告など、部門の立ち上げに大変尽力してくれた。1年が経とうとしている今もオンラインが一番の売上を伸ばしている。飲食店はお客さまに来店してもらうことが当たり前だった。

業界の固定概念を崩す機会をもらえたのは、コロナのおかげだった。すでに起こっていた顧客のニーズに、自ら変化して対応することができていなかったことに気づかされた。コロナ危機によって否応なしに変化する機会を得ることができた。ドラッカー氏は、すでに起こった未来を見つけ、自ら変化の先頭に立つように、と言う。世界共通のコロナ禍で、世界中が制限された生活の中で、本当に必要なものに気づく機会にもなったのではないかと思う。持続可能な地球環境を守るSDGSも、不要なことをやめることで、成し遂げられると思う。すでに起こっていた現実に対して、固定概念に縛られ、旧態依然として変われなかった私たち人類にとって、大きく変わる本当の機会が来ているように思う。

大塚三紀子



関西大学法学部卒業。税理士事務所、不動産会社勤務の後、2002年に玄米カフェ実身美(サンミ)を創業。現在、大阪3店舗、東京1店舗、那覇市に1店舗の計5店舗を運営。健康志向の顧客を中心に、年間40万人以上を動員する。著書に「実身実のごはん」(ワニブックス)がある。ドラッカー学会会員。

ポスト・コロナのコンサルティング

平尾貴治

～ドラッカーの言葉「変化はコントロールできない。できるのは変化の先頭に立つことだけである」を実践するために～

• 組織開発実践者として感じていること

多くの企業が、長年言われていながら変えられなかった「働き方の多様化」「人口減少に対応するビジネスとマネジメント」に、嫌でも手を付けなければいけない局面に入った。

一方で、「ビジネスも働き方も一刻も早く全て元通りに戻さなければいけない」という強い揺り戻しの空気も感じており、企業によって、あるいは階層によっての二極化を感じている。

新型コロナを乗り越えたとしても2032年には少子高齢化による経済的落込みが待っていることの自覚が必要。

• 新型コロナの生み出す新しい尺度

これまでの多くの企業が効率性、つまり「どれだけ投入を少なくして出力を大きくするか」ばかりを考えてきたが、新たなビジネスやマネジメント体制を実行するためには、新しい価値尺度を抜本的に考え直す必要がある。

実はフラットな関係性を生みやすいオンラインも活用し、「社会のあり方」と「我社の価値」をもう一度定義しなおすこと、同時に「客観的合理主義認識論（ロジカルに考えるあるべき論）」だけでなく「関係主義的認識論（「私にはこう見える・こうしたい」のぶつけ合い）」が必要である。

• 実際のコンサルテーションの中で感じていること

実直さや親和性以上に、Agility（これまでの枠組みを疑い更新することを恐れない俊敏さ）を問うことが重要。

単に成果を振り返るPDCAではなく、前提やテーブルの下の感情まで含めたプロセスを掘り下げるフィードバックミーティングを行わなければいけない。

平尾貴治



組織開発コンサルタント。(株)シー・シー・アイ代表取締役社長

1960年生まれ。そごう勤務中の2000年に経営破綻を経験。変えることが難しく、しかし存亡に関わる組織文化変革の重要性を感じ、組織開発コンサルテーション活動を開始。

現在は、特に戦略の変わり目にある企業に対して、「戦略」「組織」「自身の影響力」を一貫通貫で話し合っていたり、組織やチーム内に「確信」を生み出すサポートをしている。

新しい現実

八木澤智正

ドラッカー・マネジメント思想の源流は「人々の幸せと、その人たちが暮らす社会が機能していること」にあります。ドラッカー教授は、そのための行動規範として、「変化を観察し、本質を捉え、行動すること」を勧めました。

パンデミック＝全人類的な脅威に直面する私たちは、「新しい現実」の中にいます。社会の風景が全地球的に変わり、人々の価値観と行動が一変しました。この「新しい現実」とともに社会が機能し続けるために、これまでのドラッカー・マネジメント思想の研究を役立て、貢献する時がきたのではないのでしょうか。

1917年、北里柴三郎博士は、「全て学問研究の目的は、学者の単一な道楽ではない。研究の結果はなるべく適切に実地に応用して国民幸福を増進することにある」と、学問を「機能する社会」への貢献に繋げ、感染症による社会の危機に対して取り組み、感染症医学の発展に貢献しました。100年あまりの時を経て、私たちも、学んできたドラッカー・マネジメント思想を「新しい現実の中にあってもなお、人々が幸せであり、その人たちが暮らす社会が機能していること」への貢献に繋げ、感染症による社会の危機に対するチェンジエージェントであるべきだと考えます。「新しい現実」を理解し、変化の先頭に立って「体系的廃業」と「イノベーションの機会」として取り組むなど、ドラッカー・マネジメント思想の学びを起点にして実践・行動し始めることもできますし、既に実践されていることの本質を観取し、ドラッカー・マネジメント思想と関連づけて構造化し、応用性・汎用性を高めることもできるはずです。本フォーラムでは、事例を交えて、みなさんと議論を深められればと思います。

八木澤智正



ドラッカー学会理事。米国Claremont Graduate University Alumni Association Board。1997年横浜国立大学大学院修了。2004年クレアモント大学院大学ピーター・F・ドラッカー経営大学院修了。同校在学中にドラッカー教授と交流し、ドラッカー教授の講演会を主催した。2019年よりEMSi Fellow (EMS エssenシャルドラッカー部主宰)。2020年よりグループコーチング：「ドラッカーに学ぶ楽考」を主宰し、ドラッカー・マネジメント思想とグループコーチングの効果的な融合を研究中。

The Future That Has Already Happened

山脇秀樹

2020年1月に始まったコロナ危機から既に一年以上が経ちました。一年前には考えもしなかった色々な事が今では常態となり、皆さんは「既に起こった未来」を多様な局面で実際に体験されているかと思います。2020年1月以前の状態に戻ることを願い、そして戻そうとするよりは、現状を「既に起こった未来」と考え、「未来」への芽を見落とさないようにして、それを機会に結びつけるのが、良いかと考えます。コロナにより、日本のみならず、世界のビジネスにおける種々の仮定が崩れた現在、皆さんのビジネスの仮定はどのように変わったのでしょうか？そして、新しい仮定の下で創られた、皆さんの新しい「ビジネスの理論」は、どのように「既に起こった未来」に対応していくのでしょうか？今回の講演では、この点を、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

山脇秀樹



1952年東京生まれ。

慶応義塾大学経済学部卒。同大学大学院経済学修士課程修了。1982年にハーバード大学経済学博士号取得 (PhD)。1982年より旧西独国立ベルリン社会科学研究所上級研究員、1990年よりベルギー、ルヴァーン大学経済学部教授。その後1995年よりカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) アンダーソン経営大学院客員教授を併任し、2000年よりカリフォルニア州クレアモントにあるクレアモント大学院大学 ピーター・F・ドラッカー経営大学院教授・伊藤チェア基金教授。2006年度より同校副学長、2009-12年度に学長を務める。欧米のビジネススクールにおける初の日本人学長。

【現状へのコメント①】

パラダイムシフト

— 谷雅一の企業価値四原理システムとドラッカー・マネジメント

北村和敏

- ・ 経営倫理とは
- ・ 経営価値四原理システム
- ・ パラダイムシフト
- ・ ドラッカー・マネジメント
- ・ OS機能としての役割

北村和敏



経営倫理士/日本経営倫理士協会常務理事

ドラッカー学会企画編集委員

日本経営倫理学会員

輸液製剤協議会企業倫理推進部会会長

(主要著書)

『～三方よしに学ぶ～人に好かれる会社』(共著 サンライズ出版 2015)

『洪沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』(共著 同友館 2016)

『二宮尊徳に学ぶ報徳経営』(共著 同友館 2017)

『石田梅岩に学ぶ石門心学の経営』(共著 同友館 2019)

『上杉鷹山とイノベーション経営』(共著 同友館 2020)

【現状へのコメント②】

なぜ、今ドラッカーなのか

— 危機と変革の時代においてドラッカーが果たす役割

陶山祐司

- ・現代社会の状況 (VUCA、コロナ、新しい現実)
- ・ドラッカーが生きた時代背景：戦間期ヨーロッパから戦後アメリカ
- ・我々はドラッカーから何を学び得るか：
 - 社会動態への洞察 (人口動態、世界における地位)
 - 社会への参画の促進 (一人一人の人を責任と自由を持つ存在として捉えて)
 - “正しさ” の追求 (人間の実存まで突き詰めて)

陶山祐司



株式会社Zebras and Company 代表取締役。経済産業省で3.11を受けたエネルギー政策見直し、電機産業政策等を担当。その後VCとして、105億円の資金調達をした宇宙開発ベンチャーやIoTベンチャーへの経営支援等を実施。インパクト投資の普及や持続可能なまちづくりを経て、現在は、(1) 社会課題解決と事業成長の両立、(2) 株主のみならずステークホルダー全体への貢献、(3) 短期的な時価総額向上よりも長期的な価値創出拡大を掲げる「ゼブラ企業」の普及拡大に取り組んでいる。

【現状へのコメント③】

新しい現実(知識社会化)への対応と働く人への支援

中野羊彦

1. 私の自己紹介

(1) 自分の職業

中小企業診断士として中小企業の支援や研修の講師を仕事としている

(2) ドラッカーを学んだきっかけ

企業の管理職になった時、何か心の拠り所を持ちたいと思った。

今では、ドラッカーの考えを、中小企業の支援や研修で活用している。

(3) 現在、ドラッカー学会でしていること

①研究会での活動 ②企画編集委員としての活動 ③NPOの支援の活動

2. 現在起きていること(新しい現実)

(1) 人口減少や環境問題等、課題の深化

課題が複雑化し、課題解決のための知識の組み合わせや知の生成がクリティカルになる

(2) デジタル化の進展と覇権争い

データとAIをどのように活用するかが重要になり、新たな知識が求められている

(3) 企業の社会的な役割の問い直しやNPOの台頭

単なる製品やサービスの提供だけではなく、社会に対してどのような役割を果たすかが問われるようになった(知識の活用の意味が変化する)

これらは、ドラッカーの言う「知識社会」の進展と重なる

3. 組織で働く人の働き方が変化した

(1) 知識労働者の生産性を競う時代

専門的な知識を持った知識労働者をどのように活用するかがクリティカルになる

(2) ダイバーシティ化やリモート化で働き方が柔軟に

リモートによる仕事の推進や様々な背景を持つ人たちの活用で働き方が柔軟になる

(3) 仕事の中身や成果が問われる時代

仕事の中身・顧客価値や成果が問われる時代になる(ジョブショップ制の広まり)

4. これから働く人に求められること

(1) 「何をやりたいか」「それを実現する自分の強みは何か」を問われる

社会や顧客の課題解決のために自分に何ができるかを考える

- (2) 継続学習やセルフマネジメント力が求められる
変化に対応し成果を上げ続けるための活動やスキルが求められる
- (3) 論理的思考力や問題解決力・コミュニケーション力が益々求められる
知識労働者としての基盤となる力が求められる

5. 私が今後実施したいこと

- (1) 研修や診断等でドラッカーの考えを広め、働く人を支援したい
リーダーシップ研修など様々な研修や診断による支援で、ドラッカーの考えを広めたい
- (2) ドラッカー学会の活動に貢献したい
研修会の開催や年報・フォーラム等の執筆などで、学会の活動に貢献していきたい
- (3) NPOの活動を支援していきたい
エクセレントNPOの活動などを支援したい

中野羊彦



1978年4月に日立製作所入社、人事・勤労の業務に従事、1993年2月に日立総合経営研修所入所、以来日立グループ内の教育に携わる。2020年3月に日立総合経営研修所を退職。現在、経営創研株式会社パートナー、中小企業のコンサルティングや研修講師などを実施。

2011年に6月にドラッカー学会に加入、現在、ドラッカー学会企画編集委員、ドラッカーの窓から明日を考える研究会幹事

【現状へのコメント④】

新しい現実で試される「本当のマネジメント」

藤田勝利

企業経営や人の働き方においても、これまで慣れ親しんできた常識がことごとく覆されている。コロナ禍は企業の現場で起き始めていた変化の波を一気に加速させた。

個々人が、自分自身が何者かを理解し、自分を活かすセルフマネジメントを実践した上で、他者と生産的に関わり、組織の力を活かして価値の高い成果をあげる。変化の時代こそ、これらドラッカー教授が我々に伝えたマネジメントの実践が求められている。

いま私たちは、新しい現実の先に、自由で豊かな産業社会を実現できるかどうかの瀬戸際に立たされている。知識資本の時代に、その命運を託されているのは、一部の経営上位職者だけでなく、一人一人の知識労働者である。

このような時代こそ、役職や年齢にかかわらず、一人一人が教養としての「本当のマネジメント力」を身につけ実践する必要がある。これまで常識とされてきた旧いマネジメント観を超えて、真のイノベーションをもたらす本当のマネジメントに全力で転換していくことが何より大切である。

ドラッカー・スクールでの学び、実務の現場で得た気づき、そして先達が体系化されてきた幅広い学問的な知を融合しながら、多くの方との対話と交流を通じ、経営者と現場のマネジャーの実践と効果的な育成につながる方法論を体系化していきたい。

藤田勝利 (ふじた・かつとし)



1972年生まれ。上智大学経済学部経営学科卒業。住友商事、アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)を経て、2004年米国のクレアモント大学院大学 ピーター・F・ドラッカー経営大学院で経営学修士号取得(MBA,成績優秀者表彰)。生前のピーター・ドラッカー教授及びその思想を引き継ぐ各分野の教授陣からマネジメント理論全般を学ぶ。専攻は経営戦略論とリーダーシップ論。

2004年帰国後、組織風土改革のスペシャリストとして2社の組織変革プロジェクトに従事。2005年から6年間、IT系ベンチャー企業の役員としてマーケティング責任者および事業開発責任者を歴任。

2010年に経営コンサルタントとして独立。次世代経営リーダー育成およびイノベーション・新事業創造に関する分野を中心に、独自の知識とメソッドを活用した「経営教育(Management Education)」事業を展開。ドラッカー教授の教えと有効な経営学諸理論を融合させ、実践的なリーダー教育プログラムを開発し、経営幹部層から大学生、高校生にまで幅広く提供している。

2018年にドラッカー・スクールのジェレミー・ハンター准教授、卒業生の稲垣聡一郎とともにTransform LLC共同創業。

2015～2019年まで立教大学経営学部講師を務めた後、現在、桃山学院大学ビジネスデザイン学部特任教授。米ボストン発祥のVenture Café Tokyo 戦略ディレクター、PROJECT INITIATIVE 代表取締役としても活動。ポジティブ心理学認定コーチ。

著書：

- ・「新版ドラッカー・スクールで学んだ本当のマネジメント」(日経BP,2021年)
- ・「英語で読み解くドラッカー『イノベーションと起業家精神』」(The Japan Times,2016年)
- ・「ノルマは逆効果 なぜ、あの組織のメンバーは自ら動けるのか」(太田出版,2019年)
- ・「最強集団ホットグループ 奇跡の法則(共訳、東洋経済新報社,2007年)

連載：

『「起業家社会」の経営学』(全4回,Webメディア Biz/Zine,2020)

『今こそ役立つ、ドラッカーの「見方、考え方」』(全11回,日経ビジネスオンライン,2018) 他

【新任プラクティショナー・フェローに聞く】

伊藤順朗 (いとう・じゅんろう)



生年月日：昭和33年6月14日

出身地：東京都

学 歴：昭和57年3月 学習院大学経済学部 卒業

職 歴：

昭和57年04月 三井信託銀行 株式会社入社

昭和62年09月 クレアモント大学院大学 ピーター・F・ドラッカー経営大学院 修士課程入学

昭和64年01月 クレアモント大学院大学 ピーター・F・ドラッカー経営大学院 修士課程修了

平成01年03月 米国ノード・ストローム入社

平成02年08月 株式会社セブン-イレブン・ジャパン入社

平成21年05月 株式会社セブン&アイ・ホールディングス転籍
取締役執行役員 事業推進部シニアオフィサー

平成23年04月 CSR 統括部シニアオフィサー

平成28年05月 グループ関係会社管掌

平成28年07月 関係会社部シニアオフィサー

12月 取締役 常務執行役員 経営推進本部長〔現職〕

平成29年03月 株式会社イトーヨーカ堂 取締役

令和元年07月 株式会社アインホールディングス 取締役〔現職〕

青野 慶久 (あおの・よしひさ)



1971年生まれ。愛媛県今治市出身。

大阪大学工学部情報システム工学科卒業後、

松下電工(現 パナソニック)を経て、

1997年8月愛媛県松山市でサイボウズを設立。

2005年4月代表取締役社長に就任(現任)。

社内のワークスタイル変革を推進し離職率を6分の1に低減するとともに、
3児の父として3度の育児休暇を取得。

また2011年から事業のクラウド化を進め、売り上げの半分を越えるまでに成長。

総務省、厚労省、経産省、内閣府、内閣官房の働き方変革プロジェクトの外部アドバイザーやCSAJ(一般社団法人コンピュータソフトウェア協会) 副会長などを歴任。

著書に『ちょいデキ!』(文春新書)、

『チームのことだけ、考えた。』(ダイヤモンド社)、

『会社というモンスターが、僕たちを不幸にしているのかもしれない。』(PHP研究所)がある。

コロナ危機が問いかけるもの——何を見て、どう動くか 死生を考える——いかにわたしを生き、わたしを死ぬか!?

大井賢一

(認定NPO法人がんサポートコミュニティ)

ナチス・ドイツの Ауシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所を生き延びたベルギー人ヘンリ・キシュカが2020年4月25日に新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症で亡くなった。

ドロッカーはヒトラーの秘めた狂気に気づき、ヒトラーが権力を握る前から身の危険を顧みず、正面からナチスに反対する意思を示した。1938年に処女作『経済人の終わり (The End of Economic Man)』を英国ロンドンで書き終え、翌1939年春に米国ニューヨークで刊行した。刊行から半年後、ドイツとソ連は独ソ不可侵条約を締結、ドイツ軍はポーランドへ侵攻、第2次世界大戦が勃発した。ここにきて世界は初めてヒトラーの狂気に気づいた。

ドロッカーが生きた時代がそうだったように、わたしたちは大変なことが起こっていることはわかりつつも、自らに関わらないまでは実感が持てないものである。

人は必ずいつの日か死を迎えるが、わたしたちは死に対して無防備である。コロナ危機にあって著名人の死の報道に触れ、多くの人は自らの死を考えはじめたのではないだろうか。

わたしたちは死そのものを前もって体験することができないが、他者の死から死を見つめ、自らの死に備えることはできる。今ここにあるコロナ危機は多死社会を前に、わたしの死を考え、より良くわたしを生きるための機会にすべきではないだろうか。

大井賢一



1971年東京都生まれ。1996年明海大学歯学部卒業。歯科医師。1996年明海大学歯学部歯科放射線学講座助手を経て、父の腎臓がんを機に世界最大規模のがん患者支援非営利組織 Cancer Support Community の日本支部である認定NPO法人がんサポートコミュニティの活動に共感、2002年ファシリテーターとして参画、2003年プログラムディレクターに就任、2012年事務局長を兼務、現在に至る。

がん患者支援活動と並行して2008年～防衛医科大学校／埼玉医科大学で非常勤講師として医療倫理や死生学教育に従事。

その他、2009年～東京都がん対策推進協議会 委員／2016年～核医学診療推進国民会議副会長／2019年～日本臨床死生学会 常任理事／2020年～米国研究製薬工業協会 患者アドボカシー委員会 アドバイザーを務める。

クライシスマネジメントの本質

西條剛央



若手研究者の登竜門といわれる日本学術振興会特別研究員DCおよびPDを経て、最年少で早稲田大学大学院 (MBA) 専任講師、客員准教授を歴任。MBAでの哲学に基づく独自の授業が注目され、『Forbes』に取り上げられる。2019年より現職。専門は本質行動学。Essential Management Schoolの代表、本質行動学アカデミア (代表取締役) を務める。

2011年の東日本大震災に際して、構造構成主義 (本質行動学) をもとに3000人のボランティアにより運営される50のプロジェクトからなる日本最大級の「総合支援ボランティア組織」に育てあげる。2014年、哲学に基づいて未曾有の災害に対応した功績が認められ、Prix Ars Electronicaのコミュニティ部門において、WWWやウィキペディアが受賞した最優秀賞 (ゴールデン・ニカ) を日本人として初受賞。「ベストチームオブザイヤー2014」「最優秀グッド減災賞」「NPOの社会課題解決を支えるICTサービス大賞」受賞。著書に『クライシスマネジメントの本質: 本質行動学による3.11大川小学校事故の研究』(山川出版社)、『構造構成主義とは何か』(北大路書房)、『質的研究とは何か (ベーシック編)』(新曜社)、『質的研究とは何か (アドバンス編)』(新曜社)、『人を助けるすんごい仕組み』(ダイヤモンド社)、『チームの力』(筑摩書房) など多数。

秋大会案内

ドラッカー学会第16回大会in博多開催要領(案)

- 開催日時：2021年11月20日(土)
大会* 10:00～17:30(予定) 懇親会* 18:00～19:30(予定)
- 開催会場：学校法人麻生塾 講堂(懇親会は同キャンパス内の学食堂)
住所：福岡市博多区博多駅南1丁目14-7(博多駅から徒歩7分)
- 前夜祭：2021年11月19日(金) 18:00～21:00(予定)
※東区箱崎の筥崎水族館喫茶室(ライブ会場) ↔ 天井桟敷(夕食会場)(調整中)
- エクスカッション：2021年11月21日(日) 10:00～14:00(予定)
※博多祇園山笠発祥の地である臨濟宗承天寺の拝観や博多旧市街のまち歩きなど(調整中)
- 大会テーマ：『自らを知り、自らが望む未来を意図する』
～マインドフルネスとドラッカー、そして禅。～

○趣旨：

「マネジメントの父」と呼ばれるピーター・F・ドラッカーは、You cannot manage other people unless you manage yourself first. 「まず自分をマネジメントできなければ、他者をマネジメントすることはできない」とセルフマネジメントの重要性を説いた。一方で、セルフマネジメントの向上に有効だと言われているのが、ここ数年、世界ではもちろん日本のリーダーたちの間でも注目を集めているマインドフルネス。今回は、コロナという未知の感染症の拡大で混沌さが増している今だからこそ、ドラッカーとマインドフルネスを掛け合わせることで「自己認識の重要性」、つまり自分がより良く生きていくための「人生の目的」を知り、かつ、自分を突き動かす「何か」を理解することの大切さを感じていただくことを開催の狙いとする。古来より大陸との玄関口であった博多の歴史や文化を通じて日本に息づく仏教や禅の精神に触れることで、参加者自らの「自己認識を深める」一助としたい。

●博多大会実行委員会

吉村慎一



1952年生まれ。中央大学法学部、九州大学大学院法学研究科卒業(2003年)。
1975年福岡市役所採用。1994年同退職。衆議院議員政策担当秘書就任。
1999年福岡市役所選考採用。市長室行政経営推進担当課長、同 経営補佐部長、議事事務局次長、中央区区政推進部長を務め、2013年3月定年退職。
社会福祉法人暖家の丘事務長を経て、同法人理事。現在、主夫&町内会長。
2007年から福岡でのドラッカー読書会に参加、2016年から「ヤクドラ読書会」を主宰。
著書：『パブリックセクターの経済経営学』(共著、NTT出版2003年)

【運営メンバー】

井坂康志	石川辰義	板津薫	大島裕子
片山立	小出村珠美	五島優子	小松妙
佐々木秀昭	佐藤裕樹	芝田剛志	城保江
豊田雅彦	中野安美	西美津江	原口佳典
増本真美	吉田美香	森雅司	八木澤智正

2021年5月15日

発行：ドラッカー学会

デザイン：稲岡淳一